

観光地における駐車場配置に関する基礎的研究 ―富士宮市を事例として―

日本大学 学生会員 ○林 由宇

日本大学 正会員 小早川 悟

1. 研究の背景と目的

わが国における観光のための旅客輸送は、かつては鉄道がメインであったが、昭和40年代中頃から乗用車およびバスによる移動が主流となった。そのため、周辺地域には自動車の観光客に対しての受け皿である駐車場が必要不可欠となっている。

一方で、観光地では散策することに大きな意義がある。そのため、観光地の駐車場配置によって観光客を歩かせる仕組みや滞在時間を長くする仕組みをつくることで、観光地の活性化に大きく影響すると考えられる。

そこで本研究では、富士宮市を事例として、観光地における周辺駐車場の利用実態を明らかにし、観光地としてどのような駐車場配置が良いかを検討することを目的とする。

2. 対象とする駐車場について

(1) 対象駐車場

表-1に対象とする駐車場を示す。富士山本宮浅間大社（以下、浅間大社）に付帯する駐車場で、①浅間大社西駐車場（以下、大社西）②浅間大社前駐車場（以下、大社前）③せせらぎ駐車場（以下、せせらぎ）の3つの駐車場を対象とする。図-1は浅間大社周辺の駐車場配置図を示したものである。

表-1 対象駐車場

駐車場名	収容台数	浅間大社までの 徒歩時間	周辺商業施設(お宮横丁)までの徒歩時間
①大社西	77台	約1分	約4分
②大社前	43台	約1分	約3分
③せせらぎ	35台	約5分	約2分



図-1 浅間大社周辺の駐車場配置図

(2) 調査日時について

表-1に平成19年から平成21年までに行った調査日時を示す。なお、アンケート内容については、駐車場の利用者に駐車目的や目的地、利用回数や出発地等の項目についてアンケートを実施した。

表-2 調査日時

調査日時	平成19年9月16日(日) 14:00~17:00
	平成20年9月20日(土) 14:00~17:00
	平成21年9月12日(土) 14:00~17:00

3. 駐車場の利用実態

(1) 各駐車場の利用実態

表-3に3年間の各駐車場における駐車時間のパーセンタイル値、回転率、観光目的の利用者の平均駐車時間を示す。比較的長時間駐車が多く見られた駐車場は、浅間大社から最も離れているせせらぎであった。一方、回転率は、浅間大社に最も近い大社西が最も低いという結果であった。これは大社西が他の2つの駐車場に比べ、収容台数が多いことが影響していると考えられる。平均駐車時間は大社西が40.0分、大社前が41.0分、せせらぎは45.0分であり、せせらぎが最も長いという結果であった。さらに、観光目的の利用者に絞った平均駐車時間は大社西と大社前はそれぞれ36.0分であり、せせらぎは45.0分であった。これは、せせらぎの利用者は、複数のスポットを回って、観光客に回遊性があると予測できる。

表-3 各駐車場の利用実態

		大社西	大社前	せせらぎ
H19	50パーセンタイル値(分)	31.1	39.2	32.6
	85パーセンタイル値(分)	64.6	73.9	64.9
	回転率	1.95	2.93	3.51
H20	50パーセンタイル値(分)	31.6	27.8	36.8
	85パーセンタイル値(分)	56.9	53.6	79.8
	回転率	0.45	1.84	1.91
H21	50パーセンタイル値(分)	30.0	28.4	41.5
	85パーセンタイル値(分)	77.5	67.1	72.9
	回転率	0.65	2.40	2.09
3年間	全体の平均駐車時間(分)	40.0	41.0	45.0
3年間	観光目的の平均駐車時間(分)	36.0	36.0	45.0
3年間	3年間の平均回転率	1.02	2.39	2.50

キーワード 観光地, 駐車場配置, 回遊

連絡先 交通計画研究室 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1 7211 TEL/FAX 047-469-5242

(2) 3年間の駐車目的と目的地の割合

図-2は、3年間の各駐車場における駐車目的の割合を示したものである。大社西が観光目的の駐車場利用者が最も多く65.0%であった。一方でせせらぎは飲食目的の利用者が36.7%と他の2つの駐車場と比べて多くなっている。

図-3は、3年間の各駐車場における具体的な目的地の割合を示したものである。浅間大社に近くなるにつれて駐車場利用者は、浅間大社の参拝客が多くなることがわかる。大社西に関しては、浅間大社に付帯する商業施設のお宮横丁の利用者は3.1%であり、ほとんどが浅間大社の参拝客の利用となっていることがわかる。

図-2と図-3を合わせて考えると、せせらぎは、浅間大社の参拝客とお宮横丁への観光客、さらにはその他の場所への利用者也駐車することがわかった。

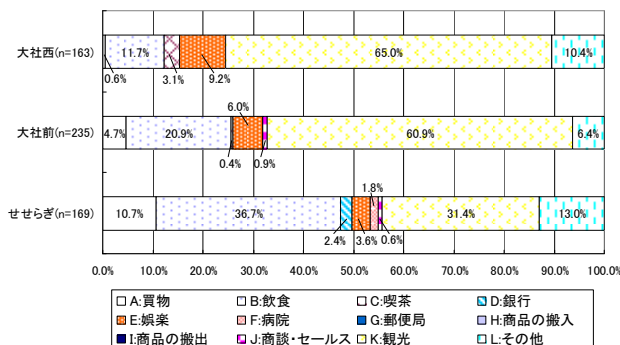


図-2 駐車目的の割合

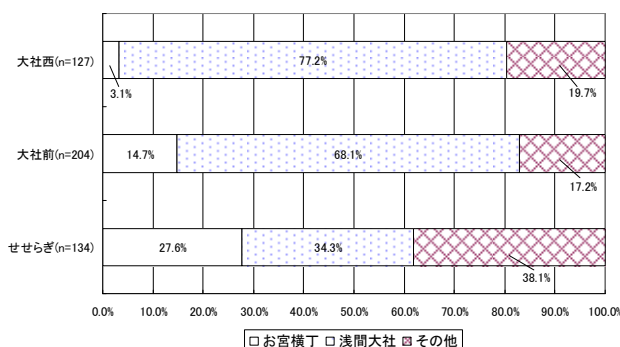


図-3 目的地の割合

(3) 3年間の利用回数の割合

図-4は、3年間の各駐車場における利用回数の割合を示したものである。初めて各駐車場を利用する割合が、大社西では23.0%、大社前では62.7%、せせらぎでは55.5%となっている。大社西は他の2つの駐車場に比べて、複数回の利用者が多いことがわかる。そのため、参拝目的で利用頻度の高い人は目的地に近い大社西を利用する傾向がある。

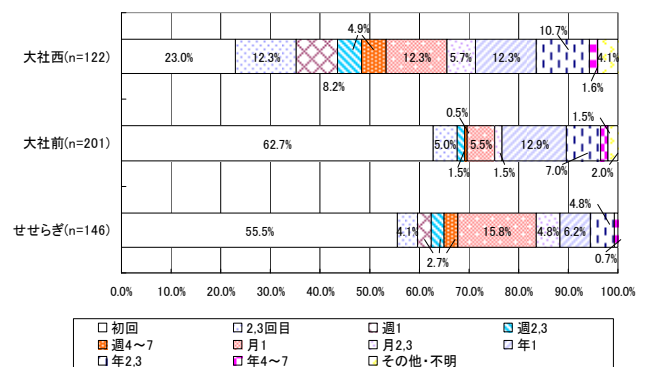


図-4 利用回数の割合

(4) 3年間の出発地の割合 (市内・市外区分)

図-5は、3年間の各駐車場における出発地の割合(市内・市外区分)を示したものである。図-4と合わせて考えると、大社西は市内の利用者で、利用頻度が頻繁な参拝客が多いため、地元の方々の利用であることが予想される。

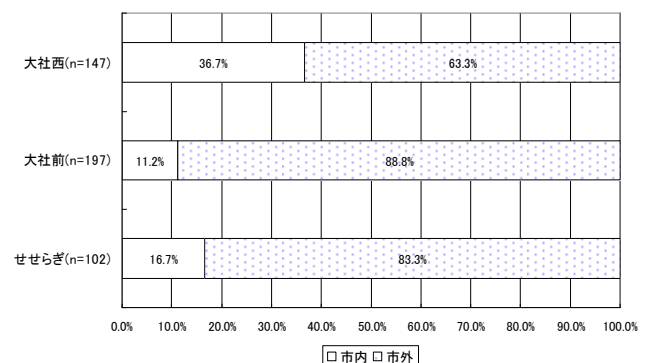


図-5 出発地の割合 (市内・市外区分)

4. 結論

本研究では、観光地内に配置された各駐車場の利用実態を把握し比較分析を行った。

結果として、浅間大社から最も離れているせせらぎは、浅間大社のみでなく、お宮横丁などでの飲食目的の利用も多く、平均駐車時間が最も長いことがわかった。一方、大社西のように浅間大社に近接して立地している駐車場は地元の参拝客の利用が多いことがわかった。

また、回転率や平均駐車時間に着目すれば、大社西は収容台数を減らし、せせらぎの収容台数を増やすことで、多くの観光客に対して回遊性を与えるのが望ましいと考える。今後は、このような駐車場の立地場所による利用者特性の違いを考慮して、観光客のための駐車場設置を行っていく必要があると考える。